

生活福祉学科 介護福祉専攻 企画 「介護フェスタ」 ～見て・触れて・気づく 介護福祉の魅力発信・啓発・体験型イベント～

報告者：中 村 直 樹¹⁾

1. 事業の概要

本事業は、本学が平成29年度青森県 福祉・介護人材確保対策事業補助金（以下、補助金とする）¹⁾を申請・取得し、平成29年11月5日から11月18日にかけて全3会場6日間にわたり開催したものである。厚生労働省が制定している毎年11月11日（「いい日、いい日」）の「介護の日」にあわせ、地域住民や介護福祉に興味をもつ中学生・高校生等を対象に、介護のことを知り、理解を深め、一緒に考えることを目的に企画・実施した。以下、事業の詳細について報告する。

2. 事業実施の背景

超高齢社会を進行するわが国において、2025年には、いわゆる団塊の世代がすべて75歳以上となることなどから、後期高齢者の増加に比例して、介護が必要な高齢者もさらに増加することが指摘されている²⁾。

昨今、世界に類を見ない状況への対応について、様々な観点から模索されているが、なかでも、介護サービス事業に従事する人材の確保は深刻な課題である。

夫婦共働きが普遍化し、働き方が多様化し、かつ、世帯構成も核家族化してきている現代においては、増大する福祉や介護のニーズに対応するために、これまで以上にサービスを増やし、継続的・安定的に推し進めていく必要がある。

総務省統計局が実施した平成24年度就業構造基本調査によると、ひとつ前に実施した平成19年の調査結果と比べ、「卸売業、小売業」が102万5千人減少、「製造業」が79万5千人減少したのに対して、「医療、福祉」が116万2千人増加、「サービス業」が24万4千人増加している。つまり、リーマンショックが発生した平成20年以降も「医療、福祉」業界だけは景気に左右されることなく安定的・継続的に産業を維持できたということになる³⁾。

しかし、現に、県内全域に介護人材が不足しており、かつ、本学を含める各介護福祉士養成施設（以下、養成施設）への進学者数も減少傾向にある。つまり、「介護福祉」単体で見たときには、アンバランスな状況があると思われることから、福祉・介護業界においては、今後さらに、やりがいと誇りの持てる、魅力ある仕事であることをより一層PRしていく必要があると考える。

本学においてもこれまで、県内全域の高等学校や介護施設等に担当者が訪問し、出前講座や進学ガイダンス、その他相談・説明等を実施し、進学をサポートや業界の魅力を伝え広める活動や、介護技術及び職場において有



1) 弘前医療福祉大学短期大学部 生活福祉学科 介護福祉専攻（〒036-8102 青森県弘前市小比内3丁目18-1）

用な研修等を実施しながら、減少を食い止める方策を模索してきた。しかしながら、例えば、その進学希望者の多くは離職者訓練制度による者が多くを占めていることや、「介護福祉士実務者研修」といった新たな資格取得ルートがスタートするなど多様化している点については課題解決途上であり、さらに検討していく必要がある。

また、わが国ではこれまで、介護は3K(きつい、汚い、給料が安い、あるいは結婚できない) などといったネガティブな捉えられ方が一般に広まり、さらに、マスコミがこの点を強調して報道しているために、介護福祉に関して消極的なイメージを助長することにつながってしまっていた。

こうした点を方向転換させる形で、日本介護福祉士養成施設協会では、今後の介護について「介護の虹の7K(希望、期待、感謝、感動、感激、可能性、研究開発)」と表現し、明るく、やりがいと意義に溢れた介護福祉を目指すことを推奨している⁴⁾。

以上に挙げたことを踏まえ、今回は、補助金を取得し、以下に挙げる県内3か所(東青地区、中南地区、西北五地区)の商業施設を会場に、福祉・介護の仕事の大切さと魅力を伝えるための「介護フェスタ」を実施し、今後進学を目指す中学生・高等学校生をはじめ、広く地域住民に呼びかけを行うイベントを開催したので、このことについて報告する。

3. 開催日時・場所

- 第1回目(つがる市会場)
平成29年11月3日(木)・4日(金)・5日(土)
10:00~16:00
※ただし、3日・4日はパネル展示のみ開催
イオンモールつがる柏 2F イオンホール
- 第2回目(弘前市会場)
平成29年11月11日(土)・12日(日)
10:00~16:00
イオンタウン弘前樋の口ライトオン前特設会場
- 第3回目(青森市会場)
平成29年11月18日(土)
10:00~16:00
青森県観光物産館アスパム 2F
ミニイベントスペース

4. 開催内容

- 1) MC×若手介護福祉士トークセッション

各会場とも、午前10時30分から正午にかけて、メインステージを会場にMC(進行役)と若手介護福祉士によるトークセッション(以下、トークセッションとする)を開催した。MC役は筆者が担当した。また、若手介護福祉士として各会場3名ずつの本学卒業生をゲストとして迎えた。

トークセッションの中では、MCの進行にあわせながら、ゲストの自己紹介、仕事内容の紹介などの後、介護福祉士として働くことの楽しさや魅力、仕事する上で抱える課題や克服策などについて、「つらいこと、大変なこと、また、経験上困ったこと」「楽しいこと、介護の仕事をしている喜び、経験上のノウハウ・キャリアアップ」といったように、一つずつ題を出しながら進行した。セッションの最後にはまとめとして、事前に準備したフリップに「私の決意」を書いてもらい、来場者に向けて自己の抱負を述べてもらった。



2) 介護福祉がよくわかるパネル展示

今回のイベントでは、補助金を活用して大型パネルを制作し展示（以下、パネル展示とする）した。各会場の通路に、介護福祉士の内容や資格の概要、資格取得に向けたルート、就業している施設・事業所等の概要などについて、説明や図表、イラスト等によりわかりやすく掲載した大型パネル15枚に加え、本介護福祉専攻について紹介した4枚をあわせた計19枚のパネルを設置し、来場者に閲覧いただいた。またこれにあわせて、簡単なクイズと来場者アンケートを記載した用紙と鉛筆を配布して、来場者に楽しみながら回答してもらえよう工夫した。回答者には介護食の調理に用いられているとろみ剤やレトルト食品などを無料で配布した。



3) 福祉〇×クイズ大会

午後1時30分から約30分間、介護福祉に焦点を当てた〇×形式で来場者に回答してもらおうクイズ大会を開催した。司会者は筆者が、また、寸劇演者として本学教員2名（工藤、福士、相馬がローテーションで出演）がそれぞれ担当した。

パワーポイントとスマートフォンのアプリケーションを活用しながら、全10問の問題をスクリーンに映し出し、司会者の合図で来場者に挙手していただく方式を採った。正答の発表の後、問題の解説を寸劇形式で演出した。参加者には記念品として本学オリジナルのクリアファイルを配布した。



4) 介護ゲーム大会

つがる市会場においては、上記の福祉〇×クイズ大会に引き続いて介護ゲーム大会を開催した。1グループあたり1人の教員が助言しながら、あらかじめ設定したコースに挑戦してもらった。子ども連れの来場者などを対象とし、介護施設で働く介護福祉士をモチーフに、子どもには介助者役として施設ウエアを模したエプロンを、また保護者には視覚に障がいがある利用者役としてアイマスクを着用してもらった。コースには、①着替え介助、②誘導、③食事介助の3つのチェックポイントを設定した。参加者には記念品として本学オリジナルのクリアファイルを配布した。



5) 介護福祉機器・用品体験・相談コーナー

会場内に、最新の福祉機器・用品を手にとって体験することができるコーナーを設け、3モーター式の介護用ベッドや各特性に応じて対応できる数種類の車いす、床



走行式の介護リフト、徘徊センサー、ポータブルトイレ等を展示した。また、会場には福祉用具を扱う業者が常駐し、来場者からの介助方法や介護技術についての質問に対してミニ講座を実施するなどして説明・対応してもらった。

6) その他

会場内外（各商業施設のエスカレーター前など）において、本学教職員と、当日、ボランティア・スタッフとして集まった学生広報グループ（GKG）の学生メンバーらが、イベント用に製作したポケットティッシュを買い物客に配布し、啓発を行った。

5. 効果

1) 来場者アンケートの実施

来場者にアンケートを実施し、3会場合計386名から回答を得た。アンケート内容としては、性別、年代、住所地等の基本属性に加えて、介護フェスタに参加する前と後とで、介護福祉に対するイメージがどのくらい変化したかについて、「楽しさ」・「魅力」・「理解度」・「興味」の4項目について測定した。また、意見・感想について自由記述欄を設けた。以下、アンケート結果と分析について記す。なお、アンケートへの回答は来場者の任意である。

2) 各設問に対する回答結果

問1 回答者の性別

- ・男性134名、女性252名（計386名）

問2 回答者の年代

- ・上位順に、40歳代70名、30歳代68名、60歳代50名、50歳代48名、20歳代41名、などであった。また、どの年代も共通して女性の来場者が男性を上回った。

問3 回答者の住所地

- ・上位順に、弘前市187名、青森市54名、五所川原市29名などであった。各性別ごとでも同じ結果であった。

問4 参加前後の介護福祉に対するイメージ変化

- ・「楽しさ」・「魅力」・「理解度」・「興味」の4項目ともに、「楽しくなった」等の第2位に値する項目が一番多く、次いで「とても楽しくなった」等の第1位に値する項目が多い結果となった。

問5 意見・感想

- ・全年代を通して計70名の記述があった。
- ・全般的にトークセッションや福祉〇×クイズ大会、パネル展示などについて、テーマや内容、出演者などに興味・関心・好感を持ったとの記述が多く見られた。また、介護福祉士の仕事ぶりや必要性等が理解できた旨の記述も見られた。
- ・介護保険の利用手順や資格修得後の就職先、中途離職についてのグラフ・データを求める記述もあった。

3) 分析

今回実施した3会場の来場者層は、いずれも、友人同士や親子連れ、夫婦等でのショッピング客が多数を占めており、すべての年代において回答を得ることができた。また、大学が所在する弘前市からの来場が最も多かったことから、養成施設としての認知度が高いことがうかがえた。各介護関連施設をはじめ、銀行や道の駅などに依頼し掲示してもらったイベントポスターの効果も一助になったものと捉える。

しかし、中学生・高等学校生が単身でこのイベントに足を運んだ実績がほぼなかった。開催前告知として高等学校に教員らが出向いて説明したりチラシ等の送付も試みたが、今後はこれに併せた形で、小学生・中学生期など早期から介護の魅力や楽しさ等について啓発するためのアイデアを練っていくことや、親・祖父母世代からの効果的なアプローチ方法がないか検討していく必要性が示唆された。

他方、イベント内で実施したトークセッションや福祉〇×クイズ大会、パネル展示などを通じて、参加前後の介護福祉に対するイメージ変化が優位なほうに傾いたことから、開催にあたっての意義を含め、一定の効果が認められた。中でも特に、トークセッションにおいては、単にゲストの職場や業務内容等の紹介に終始せず、「介護福祉士としての自分」に焦点を当てた質問内容としたことや、来場者がゲストのトーク内容をよりイメージしやすいよう、介護場面で働いているシーンやプライベートも充実していることがわかるシーン等を写した写真をスライドに映し出しながら補助説明してもらったことにより、さらに演出効果が高まり、自由記述にあったような向上的リアクションを得るに至ったものと考えられる。次回以降の開催にあたって、介護福祉士として働く“人間像”や“人となり”などが来場者に伝わりやすいように工夫して臨むことで、効果が上がることが示唆された。

介護フェスタ 来場者アンケート 結果 (3会場合計)

①回答者の性別

男	女	計
134	252	386

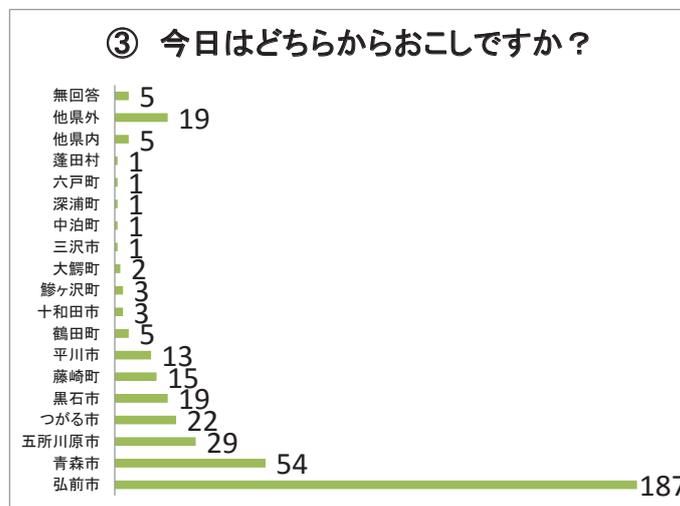
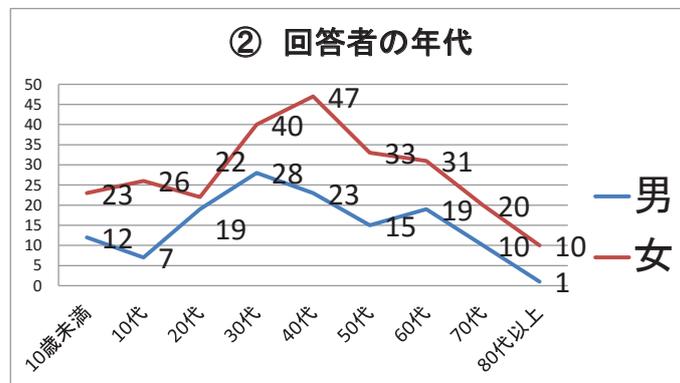
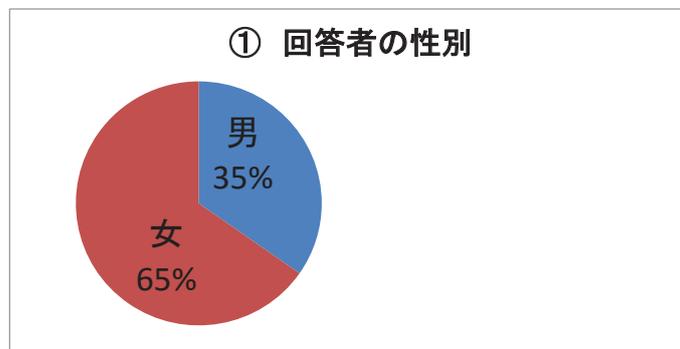
②回答者の年代

性別	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答	計
男	12	7	19	28	23	15	19	10	1	0	134
女	23	26	22	40	47	33	31	20	10	0	252
											386

③今日はどちらからお越しですか？

性別	弘前市	青森市	五所川原市	つがる市	黒石市	藤崎町	平川市	鶴田町	十和田市	鱒ヶ沢町	大鰐町
男	69	18	9	6	4	6	4	1	1	2	1
女	118	36	20	16	15	9	9	4	2	1	1
計	187	54	29	22	19	15	13	5	3	3	2

性別	三沢市	中泊町	深浦町	六戸町	蓬田村	他県内	他県外	無回答	計
男	0	0	1	0	0	1	11	0	134
女	1	1	0	1	1	4	8	5	252
計	1	1	1	1	1	5	19	5	386



④介護フェスタに参加する前と後とは、介護福祉に対するイメージがどのくらい変化しましたか？

・楽しさ

性別	とても楽しかった	楽しかった	あまり楽しかなくなった	楽しかなくなった	無回答	計
男	45	78	4	1	6	134
女	68	138	12	4	30	252
計	113	216	16	5	36	386

・魅力

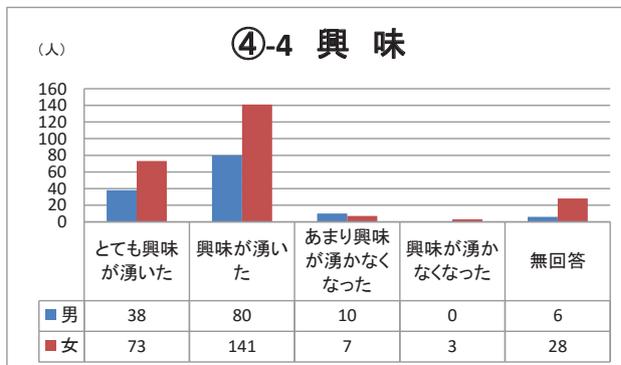
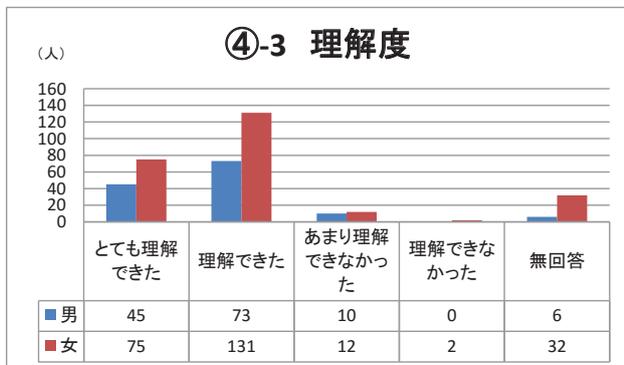
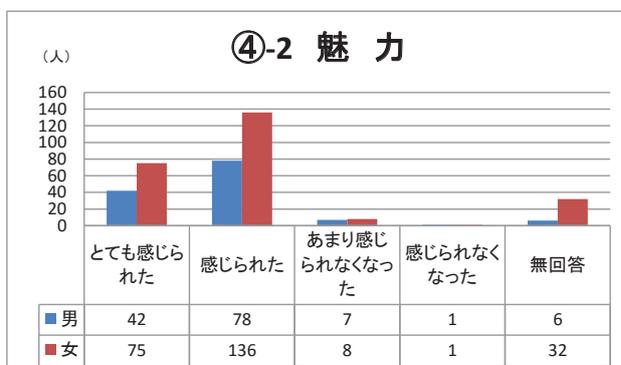
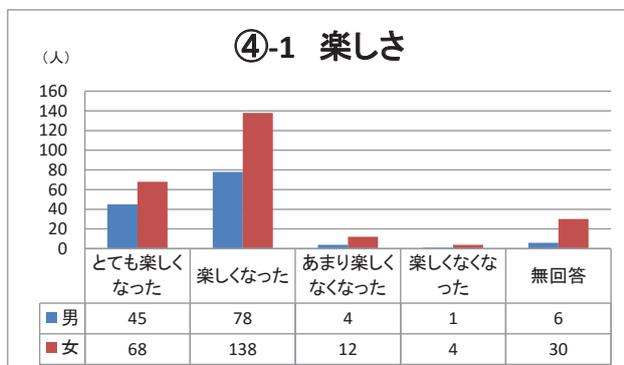
性別	とても感じられた	感じられた	あまり感じられなくなった	感じられなくなった	無回答	計
男	42	78	7	1	6	134
女	75	136	8	1	32	252
計	117	214	15	2	38	386

・理解度

性別	とても理解できた	理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	無回答	計
男	45	73	10	0	6	134
女	75	131	12	2	32	252
計	120	204	22	2	38	386

・興味

性別	とても興味が湧いた	興味が湧いた	あまり興味が湧かなくなった	興味が湧かなくなった	無回答	計
男	38	80	10	0	6	134
女	73	141	7	3	28	252
計	111	221	17	3	34	386



⑤その他、ご意見をお寄せください

年代	性別	内容(原文)
10歳未満	男	まだ子どもなのでわからない。
10代	女	資格を取るまでのルートがもっと知られると人材が増すと思いました。
	女	介護のことについてよく知れました。
	女	子どものためにふりがなをふると、もっとわかりやすくなりと思う。
20代	女	このような事をもっとやっていけば良いと思う。
	男	トークショーの介護士さんがとても生き生きしていた。介護の仕事にいいイメージがもてた。
	女	社会福祉士1年目です。勉強になりました。
	男	現場で活躍されている介護士さんの生の声が聞けてとてもためになった。皆さんが輝いていた。
	男	うちの祖母が介護士さんに大変良くしてもらいました。感謝しております。大変な仕事ですので、なんとか働く人が増えてほしいと思います。
	男	トークセッションがとても良かった。介護士さんも言っていたように、ネガティブなイメージをプラスに変えるように、このようなイベントを多くしてほしい。
	男	すばらしかった。
	女	クイズでの実演がとても分かりやすかったです。(車イス)
	男	楽しかった。
	男	トークセッションに参加して、生き生きと働いている介護職員の方をみて、自分も働いてみたいと思いました。
30代	女	介護の仕事は大変なイメージもありましたが、やりがいのある楽しい仕事なのだと知ることができました。
	男	トークセッションすばらしかった！
	男	ありがとうございました。
	男	お休みの所皆様お疲れ様です。
	女	学校へ行きたいです。
	女	パネルが見やすかった。
	女	義理のお父さんが、特養があいていなく有料老人ホームに入っていますが、特養がもっとあればよいと思いました。
40代	男	楽しいイベントでした。もっと実施してほしいです。
	男	●●さん(本学在學生)に紹介されて来ました。とても良かったです。
	女	施設での虐待など暗いニュースが続いているが、今日は、がんばられている介護士さんの話を聞いて、とても良かった。今日のゲストのように質の高い人材が増えてほしい。
	女	こんなイベントをたくさんあれば良いと思います。
	男	クイズ、おもしろかったです。このあと頑張ってください！
	男	来年からケアマネは受験できないのでしょうか？
	女	タイヘンなわりに給料が安いので、もっと給料が高ければ人材確保につながると思います。
	女	子供にこういう仕事に就いてもらいたいと思った。
	女	勉強になった。
	女	とてもわかりやすかったです。
50代	女	人材が増えると良いですね。私も最近、資格取得して働く所を探しているところです。
	女	親が年老いてきたので、関心を持ちました。
	女	また1つ勉強になりました。
	男	楽しいイベントですね。
	男	貴校の取組が先進的である。
	女	介護する者のケアをもっと考えてほしい。
	女	身内に介護が必要な人が来て、初めて、介護士やヘルパーさんのありがたさがわかるようになった。
	女	介護食がおいしかった。
	女	友達がこの仕事をしているので、大変さは良く聞いてます。がんばってください！
	女	体制を変えて働きやすくなった方が良い。特に給料を高く！
60代	女	知らない事がたくさんあった。
	女	受ける事の出来るサービスが知りたい。
	女	フェスタの他に、食品館のドラッグコーナーでもやってみたらよいのでは？
	女	介護食 興味深かった。沢山いただけてありがとうございます。
	男	介護のことが少し見ただけで理解できたことに感謝です。
	女	勉強になりました。介護員として少し働いていた。
	女	もう少し時間をとって来たかった。
	女	車いすの安全のための勉強になりました。
	女	安全な車イスのあつかいの方、ためになりました。
	男	床ずれをつくらぬという強い決意で看取りのお世話をされた話は家族にとってどれほどに感謝されるでしょうか。感動しました。
70代	男	介護福祉士のなり手が少ないので待遇改善につとめて欲しい。
	男	休日業務大変お疲れ様です。
	男	介護の処遇が少しずつですが改善されていることが良かったと思いました。
	女	若い方々が、資格をとってからの保障を、もっと厚くして欲しいと感じます。離職を防ぎましょう！
	女	今日は、弘前暮らしの保健室のレクリエーションでやってきました。
	女	介護の仕事に対する報酬が少ないことが残念です。
	女	資格修得後の就職先 etc. 途中でやめていないかなど、くわしいグラフのようなものがほしい。
	女	楽しく、そして大変なことです。
	女	家に92才の姑がいるので興味・関心をもって参加しました。
	男	トークショーのゲスト3人が明るく仕事をしている姿に感動しました。MCの巧みなトークで楽しめました。
80代以上	男	介護保険を利用するまでの手順のパネルが欲しかった。
	男	これからもクイズをやってほしいです。
	男	介護報酬の改善が急務ですね！
	女	介護される立場なので、脳卒中などにならないように、予防生活に気をつけようと思う。
	女	がんばってネ。

6. まとめ

今回の「介護フェスタ」開催を通して、介護人材確保の観点においても、養成施設のもつノウハウを生かした地域とのかかわりや、福祉・介護に関しての普及・啓発活動が大切であることをうかがい知ることができた。地域住民に福祉・介護の魅力を発信し、連綿と、親から子、子から孫へとつながっていくように、質の高い介護の担い手確保が重要であることを伝承していただけるように寄与していくことが本質と捉えるところである。

最後に、補助金の事務に際しご指導いただいた青森県健康福祉部健康福祉政策課、会場をお貸しくださった各商業施設の受入担当者、介護福祉機器・用品及びパネル展示等にお世話になった関係業者、ご来場くださった多くの市民の皆さまに心から感謝申し上げる次第である。

・役割分担（敬称略）

1) トークセッション出演者（本学卒業生）

	11/5 (日) イオン柏	11/11 (土) ロックタウン	11/12 (日) ロックタウン	11/18 (土) アスパム
1人目	小畑 みなみ	安達 央帆	工藤 千穂	安達 央帆
2人目	清野 佳奈	大平 明奈	安達 央帆	五十嵐 晴香
3人目	坂本 志穂	山田 梨恵子	山田 梨恵子	成田 光治

2) 教職員・学生スタッフ（学生広報グループ）

	11/5 (日) イオン柏	11/11 (土) ロックタウン	11/12 (日) ロックタウン	11/18 (土) アスパム
企画担当	中村直樹			
事務担当	佐藤吉彦			
教職員 スタッフ	戸来 睦雄 中村 聡 工藤 雄行 福士 尚葵	山口 かおる 中村 聡 工藤 雄行 相馬 陽子 福士 尚葵	山口 かおる 戸来 睦雄 中村 聡 工藤 雄行 相馬 陽子 福士 尚葵	山口 かおる 戸来 睦雄 工藤 雄行 相馬 陽子 柴田 拓弥
学生 スタッフ	乳井 姫頼莉 古川 遥香 鎌田 和	宮林 浩都 長内 みず香 千葉 綾香	佐藤 真優 神 亜未紗	五十嵐 侑真 工藤 浩輔 高井 佑馬

引用文献

- 1) 青森県高齢福祉保険課・介護人材支援グループ：福祉・介護人材確保対策事業（2017.11.30参照）
<http://www.pref.aomori.lg.jp/welfare/care/hukushijinzei.html>
- 2) 厚生労働省：平成29年版厚生労働白書. p312, 2017
- 3) 青森県：青森県福祉・介護人材確保定着グランドデザイン（解説編）. p16, 2016
- 4) 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会：近い未来の介護福祉士（2017.11.30参照）<http://kaiyokyo.net/future/index.html>